

魚フィギュアの製作過程

extremelure

型作成

今回用意した材料。

大型おもちゃ屋、模型店やネットで入手可能なものでやっています。

レゴやダイヤブロックでも流用可。ダイヤブロックの方が安かったと思います。

シリコンを流す為の枠作りに使用します。



油粘土です。型製作用に、原型に残りにくくなっています。

ほいく粘土で流用可。

他の油粘土は、原型に張り付きやすく、後が大変になります。安物で済まないほうが無難かもしれません。

また、冬場は固くなり使用しづらくなるので、温めて使用してください。



では、製作に入っていきます。

まず、ブロックを使用して枠を作っていきます。

原型を粘土に埋める為、原型の半分より少し高くなる程度の枠を作って下さい。

原型周りのシリコンをケチる為に原型ギリギリにすると薄くなりシリコン型がフニャフニャになり変形の原因になりますので、ゆとりを持って枠を製作しておいて下さい。



枠が出来たら、油粘土を枠の高さまで敷き詰めていきます。

敷き詰めた後は、平らになるように麺棒などの円筒状の物で平らにし、傷やシワを取っておきます。



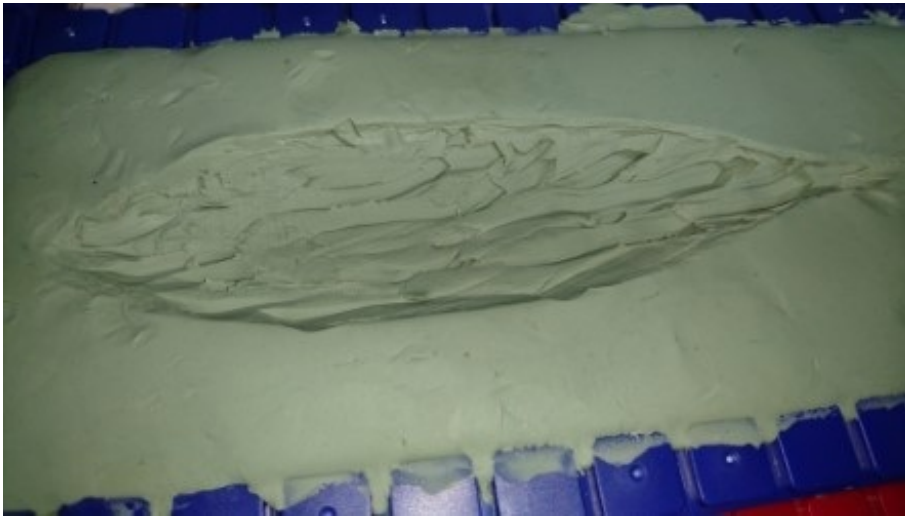
平らに敷き詰める事が出来たら、原型を置き、外形をなぞっていきます。



この様に原型の傷を付けておきます。



このラインの内側を原型の半分の高さまで掘っていきます。粘土細工用のヘラ等が有れば便利です。



原型を当てて見ながら半分埋まるまで調整していきます。
腹に刺さってる針金はスタンド固定用穴になり、型に針金をセットして樹脂を流した後抜くと、毎回同じ位置に同じ深さの穴が出来ます。



原型が半分収まる穴が出来ると、原型と穴との境を埋め密着させます。
隙間があるとシリコンが流れ込みますので丁寧に、不要な所に粘土が残らない様ここは注意して作業しておいて下さい。



隙間を埋め終わり、今までの作業で付いた傷を均すとシリコン型のズレを防止する「ダボ」凹を作ります。と言っても、ペンの後ろ?のようなもので凹ませていくだけです。

これは、消しゴム鉛筆の消しゴム部分を押し当てています。

そして、シリコンを流し込む為の枠を原型の上の高さまで組み上げておきます。

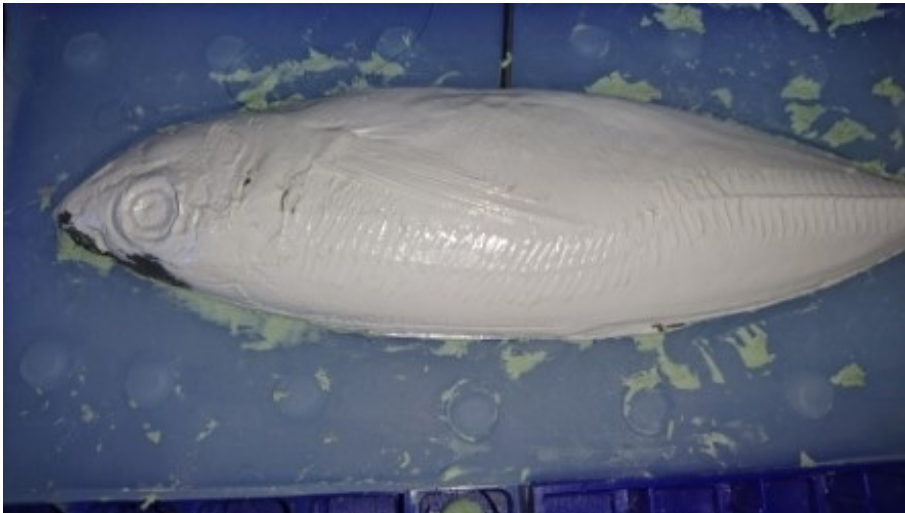
真空にしてシリコンの気泡を抜く場合、膨らむので高めに。真空設備が無い場合は、気泡抜けの良い粘度の低いシリコンを用意します。



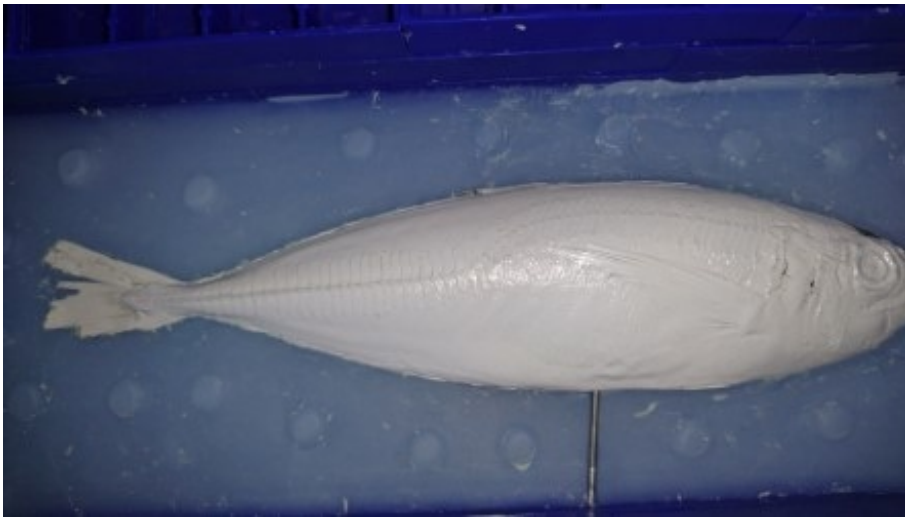
シリコンを流していきます。真空で気泡を抜いて使用しています。



片面シリコンを流し、所定の硬化時間置き硬化させた後、粘土側のブロックを外していきます。ブロックは、シリコンと粘土の接地面まで外します。全部外してしまわないように。接地面までブロックを外したら、粘土を全て取り除きます。



シリコンや原型に残った粘土を全て取り除いてしまいます。



粘土を取り除いたら、シリコン面全体に離型剤と言うものを塗布します。

塗って無いと次に流すシリコンが完全にくっついてしまいますので、塗り残しが無い様にしてください。

薄めた塗料でも流用は可能です。

また、シリコンの入った離型剤や、スプレーだとシリコンとの相性によっては硬化不良を起こすことがありますので注意して下さい。



離型剤を塗布し終わったら、外したブロックをもう一度組み直してからシリコンを流していきます。



また、所定の硬化時間経過後、今度は全てのブロックを取り外します。

ブロックを取り外すと、ブロックの隙間等にシリコンがはみ出していますので、カッターやハサ

ミで全て取り除いていきます。

この時、使用するカッターやハサミは、良く切れる物を使用してください。



はみ出した部分を取り除くと、離型剤をちゃんと塗布出来ていると軽い力で型が外せるはずで

。



原型を取り除き、樹脂の流し込み口と空気抜きの穴を開けたら完成です。

レジンアクセサリーの型やお菓子の型は片面で同じような流れで製作すればオリジナルの物を作ることが可能になります。

現在、ここまでの作業はデジタル化してしまって、数年ぶりの作業で全部材料を買って製作してみました。

これらの材料は簡単に入手可能な材料ですので、興味有る方はやってみてください。

なんか、面白いとこ何もなかったですが・・・。こういうのも面白く書ければいいんですがね～

。